第2200号　毎月1・10・20日発行　（第3種郵便物認可）

エヌピーディー・ジャパン〈エクササイズアパレル市場分析〉

女性市場規模2ケタ増

ジム／フィットネスけん引

スポーツアパレル・シューズ市場情報サービス「Japan Sports Tracker」を提供するエヌピーディー・ジャパンは10月30日、エクササイズに使用するスポーツアパレルに関する市場分析を発表した。それによると、スポーツに使用するアパレル購入における女性着用者の割合は29%で前年同期比5%減となったが、エクササイズに使用するアパレルに限定すると女性着用者割合は半数となり、前年同期比で13%増加している。調査の要旨は以下の通り。

◇

【スポーツアパレル購入の女性着用者は29%】

「Japan Sports Tracker」では、スポーツに使われている、またはスポーツ用に販売されているアパレルとシューズの消費者購入動向の調査を毎月継続して実施。直近1年（16年9月～17年8月、0～13歳除く、金額ベース）のスポーツ使用目的で購入したアパレルの市場規模は2900億円で、前年同期比2%増となった。

スポーツ使用目的購入したアパレルの着用者性別構成比（金額ベース）は、男性71%、女性29%で、女性の比率が非常に低くなっている。このうち、女性着用者の金額市場規模は同5%減と縮小している。

使用目的別で金額シェアが高い4つのスポーツにおける着用者性別構成比（同）をみると、ランニング／陸上競技、ゴルフ、ウオーキングでは女性着用者比率が2～3割にとどまるが、エクササイズでは51%と男性よりも2ポイント多く、女性比率が非常に高いことが分かる。また、エクササイズ使用の女性着用者の金額市場規模は同13%増と2ケタ成長している。

【エクササイズ使用の女性アパレルはジム／フィットネスけん引】

エクササイズ使用目的で購入した女性着用のスポーツアパレルについて、更に細かく使用目的の金額シェアをみると、1番多いのはジム／フィットネス使用で46%。2位エアロビクスの2倍以上となる。ジム／フィットネス使用は、金額市場規模が昨年同期比22・5%と大きく伸長している。

【45歳以上「週に1～2回使用」がジム／フィットネス女性アパレル市場をけん引】

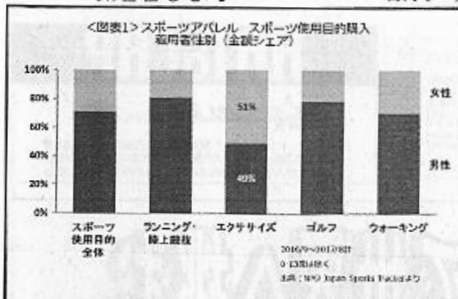
ジム／フィットネス使用目的で購入したスポーツアパレルの女性着用者を年代別にみると、45歳以上で全体の59%を占める。最大シェアは55歳以上で33%、2番目の45～54歳は26%となった。ジム／フィットネス女性アパレル市場の使用頻度では、週1～2回が最も多く54%を占める。このグループの金額市場規模は前年同期比44%増と、ジム／フィットネス使用目的で購入したスポーツアパレル市場のけん引役であることが分かる。

【総括】

スポーツアパレル・シューズ市場が成長する中、女性市場はマイナス成長となっている。しかし、スポーツメーカーや販売店は、スポーツを女性にも楽しんでもらおうという社会的意義と、ブームは女性がつくるという期待から、女性市場を成長させようとしている。

エクササイズ市場に関しては、最近はアパレルブランドとトレーニングジムやフィットネススタジオの相互参入がみられる。ジム来場者にアパレルブランドの特典を渡したり、スポーツ施設内でアパレルを販売したりと、エクササイズ来場者をアパレル消費へと導く戦略といえる。背景には、ネットショッピングの成長により実店舗が差別化を図るため実体験を強化していること、アスレジャーブームへの期待、さらにエクササイズ市場は女性の割合が高いこと、があげられる。

エクササイズ目的でのスポーツアパレルは、女性が男性を上回る規模であることに加え2ケタ成長を果たしており、女性市場を成長させるカギになるとともに、新しいビジネスの場としても注目される。



スポーツ産業新報

チャリティ寄付先公募

大阪マラソン組織「第8回大阪マラ

7つのテーマで各2団体

大阪マラソン組織委員会は、「第8回大阪マラソン」（18年11月25日開催予定）のチャリティ寄付先団体公募を、11月3日から30日まで行っている。同大会は、チャリティマラソンとして支援の輪を広げ、チャリティ文化の普及を目指しており、大会参加者に寄付先団体の募集を呼び掛けている。

大阪マラソンでは、参加するすべてのランナー、観客、ボランティア等、関わる多くの人にチャリティに参加する機会を提供。「みんなでかける虹。」を合言葉に、7つの"支える"テーマから、自身が支援したいテーマを選択することで、チャリティに参加する仕組みを提供している。

この度、大阪マラソンのチャリティテーマに沿った活動を行っている団体で、同大会を通じたチャリティに意欲があり、チャリティランナー制度等への協力や広報活動を積極的に実施してもらえる団体を、公募対象分野（テーマカラー、チャリティテーマ、活動内容の順）

▽「赤色」・生きる希望を支える＝治療方法が確立していない病気の研究、新たな医療技術の開発に貢献している団体等

▽「オレンジ色」・子育てと若者を支える＝待機児童・病児保育問題、子育て・ひとり親貧困問題の解決、虐待の撲滅、若者の就労支援に貢献している団体等

▽「黄色」・家族を支える＝難病等による共用作業所、自然環境を支援する団体、障がい者に対する共用作業所、自然環境を支援する団体、障がい者に対する共用作業所、自然環境を支援する団体、障がいのある子どもたちにサポート体制が整った施設の整備やサポート活動を行っている団体等

▽「緑色」・子どもの未来を支える＝世界中の子どもたちが安心して学び、運動できる環境づくりを行っている団体や子どもの貧困問題解決に向けた活動を行っている団体等

▽「水色」・自然環境を支える＝水の供給設備支援や公衆衛生施設の整備、海や川など水辺に生きる生命の保護、水質浄化を支援する＝すべてのアスリート支援、ジュニアアスリート育成、生涯スポーツ振興、文化芸術による子どもの育成を行っている団体等

▽「紫色」・美しいまちと暮らしを支える＝地域清掃など街の美化活動、災害支援に取り組んでいる団体等

詳細は、大会HP「チャリティ寄付先団体公募募集要項」（http://www.osaka-marathon.com/2017/charity/contribute/）まで

募集概要は次の通り。

〈東京マラソン2018〉

▽活動日＝18年2月25日（日）

▽エントリー期間＝17年11月24日（金）12時から12月4日（月）17時まで

▽活動内容＝給水・給食・コース（沿道）の整備と同様に大会の成功および、参加ランナー、沿道から声援を送るファンをサポートする目的でボランティアを募集するもの。